



国家汉办/孔子学院总部规划教材
Hanban (Confucius Institute Headquarters)

中日桥汉语

中国語—日中の架け橋

汲传波 冉泽 编著

(准中级下)

北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS

中日桥汉语

中国語——日中の架け橋

(准中级下)

汲传波 冉 泽 编著



北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS

图书在版编目(CIP)数据

中日桥汉语. 准中级. 下/汲传波, 冉泽编著. —北京: 北京大学出版社, 2017.7
ISBN 978-7-301-28453-7

I. ①中… II. ①汲… ②冉… III. ①汉语—对外汉语教学—教材 IV. ①H195.4
中国版本图书馆CIP数据核字(2017)第144154号

书 名	中日桥汉语(准中级下) ZHONG-RI QIAO HANYU
著作责任者	汲传波 冉 泽 编著
责任编辑	何杰杰 邓晓霞
标准书号	ISBN 978-7-301-28453-7
出版发行	北京大学出版社
地 址	北京市海淀区成府路205号 100871
网 址	http://www.pup.cn 新浪微博:@北京大学出版社
电子信箱	zpup@pup.cn
电 话	邮购部 62752015 发行部 62750672 编辑部 62752028
印 刷 者	三河市博文印刷有限公司
经 销 者	新华书店
	787毫米×1092毫米 16开本 18.75印张 288千字
	2017年7月第1版 2017年7月第1次印刷
定 价	83.00元(含1张MP3光盘)

未经许可,不得以任何方式复制或抄袭本书之部分或全部内容。

版权所有,侵权必究

举报电话: 010-62752024 电子信箱: fd@pup.pku.edu.cn

图书如有印装质量问题,请与出版部联系,电话:010-62756370

日本立命馆大学孔子学院·北京大学对外汉语教育学院
《中日桥汉语》(中国語——日中の架け橋)
编辑委员会

顾问: [日] 竹内实

监修: [日] 中川正之 [日] 是永骏

总主编: 李晓琪

准中级主编: 金舒年 [日] 绢川浩敏 [日] 池田巧

总 序

俄国教育学家乌申斯基曾说过,“好的教科书和有效的教学法,能使没有经验的教师成为一个好老师。如果缺少这些,一个优秀的教师也难以真正在教学上登堂入室。”这句话明确地告诉我们,教材在第二语言教学中,始终占据着相当重要的位置。

随着汉语作为第二语言教学在日本的不断深入,不仅学习人数快速增加,且学习者的类别也不断增多,除了大学和中小学外,很多不同类型的企业、很多外资企业的工作人员都加入到了汉语学习的行列。在这一形势下,对教材,特别是对有针对性的教材的需求越来越迫切。本套系列教材正是在这一大背景下顺应而生。本套教材的编写者衷心希望此套教材的出版能够为广大在日本本土学习汉语的需求者提供积极的帮助,同时也为在中国大陆学习汉语的各类日本朋友提供多一个选择。以下是本套教材的概括介绍。

编写原则

针对性 充分考虑学习者的母语特点,在全面研究有别于欧美学习者的学习规律基础上,针对日本人和日本人学习汉语的特点,确定教材编写模式,力求提高以日语为母语的学习者汉语学习效率。

科学性 吸收国际最新的教材编写理论,吸收汉语最新研究成果,在汉语语言要素选择、输入、练习设计等诸多方面进行全面考量,循序渐进,力求教材内容科学专业。

真实性 从初级到最高级,不同阶段突出不同特点,但各段的共同点都是以实现语言交际为目标。场景设置和材料的选择都与某一真实环境相结合,使教材真正可以做到学以致用。

系统性 参考国内外先进的第二语言标准,特别是汉语水平测试标准,整套教材为小台阶多级别的组合,共分为初级、准中级、中级三段,每一段上下两册,全套教材共有六册。

文化性 教材在选材上突出文化底蕴,尤其注意中日文化的交流与碰撞,使语言学习的过程同时成为文化交融的过程,充分体现出多元文化大

背景下语言教学的崭新面貌。

结构目标

全套教材共有三段六册,各段的具体目标是:

初级 以结构为纲进行编写,同时兼顾功能项目,力求二者完美结合。初级教材的编写重在体现出针对性特点,即针对日本人学习汉语时需要加强的方面,采用听说领先的编写方式,同时又兼顾到中日语言中汉字的中介作用,使教材从初级起,就展现出有别于传统的、面向欧美学习者的汉语教材的崭新面貌。初级阶段的词语在800左右,学完初级,可以进行初步的日常交际。

准中级 以情景和功能为纲进行编写。为体现情景的真实性和实用性,上册侧重于日本情景,下册侧重于中国情景,并尽可能做到寓功能于情景之中,同时注意补充初级阶段未曾学习的语法项目。课文多是对话加叙述的形式,力求自然、轻松、有趣,以引发学习者的兴趣。同时,以多种形式强化听和说的训练,进一步体现母语为日语者的教材特点。学完准中级,词语达到1600左右,可以独立在中国生活,并用汉语进行简单的沟通。

中级 以功能和话题为纲进行编写,同时兼顾中级阶段的语法项目。在前两阶段的基础上,加强学生对中日同形词音义对照辨析能力的培养。课文形式由主要是对话体转为文章体,课文内容从主要是日常生活交际语言的学习转为对更具社会、文化含量文章的读解与听说,从而提高在较深层次、较宽领域运用汉语进行表达和交际的能力。学完中级,词语达到3200左右,可以比较自由地用汉语与中国人进行沟通和交流。

教材特点

国别教材 语言教学理论,特别是二语学习理论的研究成果已经充分表明,不同母语的学习者,由于自身母语的不同,在学习第二语言的时候,会产生不同的学习特点和难点。因此,针对不同母语者的不同需求,从第二语言教材的编写原则出发,针对某一国别的特殊需求编写教材是十分科学有效的,这也正是本套教材最突出的特点之一。

合编教材 本教材的另一特点是,这是一套名副其实的中日合编教材。从教材的策划到编写大纲的制定,从总顾问的邀请到教材总主编和总监修的配合,从各册主编的确定到编写人员的组成,以至每一课的具体编写,每一步都凝聚了中日双方人员的心血和智慧,其目的就是中日双方各自发挥所长,扬长避短,合编教材。

趣味教材 本教材内涵十分丰富,其内容不但贴近学生生活,而且特别注重凸显中日两国的文化,同时放眼世界,展示人类共通文化;练习形式多样,既丰富又实用,既有针对课文内容的问题,也有具有启发性的开放式问题,使学习者在学习教材的同时,有很宽广的拓展和深化思考的空间,使得学习过程充满了挑战与趣味。

有效教材 以上几个特点,体现出本教材明显地不同于以往的汉语教材。她针对日本人学习汉语的实际需求,她凝聚了中日双方汉语教师的共同智慧,她科学、有趣、实用、有效。我们相信,这是一套全新的受到使用者欢迎的有效教材。

本套教材从2008年策划到2012年开始出版,历经四年。其间日本立命馆孔子学院付出了极大的努力。作为本套教材的总主编,我首先要向立命馆孔子学院致以最衷心的感谢,是你们的睿智和果断,使得教材得以问世;同时,我也要感谢北京大学和立命馆大学的校领导,你们的决策和支持,保证了教材的持续编写;我还要感谢为本教材的策划和提出建设性意见而付出心血的所有中日朋友,你们的参与与献策,使得教材锦上添花!最后,我要感谢参加编写教材的全体中日教师,谢谢你们的辛勤付出!感谢北京大学出版社和汉语编辑部的领导和编辑,最终,这套体现中日合作结晶的成果在充满生机与活力的北京大学出版社落下帷幕!

由于水平和能力,本套教材一定还有需要进一步改进的地方,欢迎听到各方朋友的宝贵意见。

李晓琪

2012年春于北京大学

総 序

ロシアの教育学者ウシンスキーは、「よい教科書と効果的な教授法は経験の浅い教師を一人前の教師にすることができる。これらがなければ、優秀な教師であっても教育のより深い境地に達することは難しい。」と述べている。この言葉からもわかるように、第二言語教育において、教科書は非常に重要なものである。

日本では中国語教育の拡大に伴い、学習人口の増加だけではなく学習者のレベルも多様化している。大学や小中高校以外でも、各種企業、外資企業の社員などが中国語学習者となっている。このような状況の下、教科書に対する要求は高まってきており、このニーズに応えるべく本シリーズは生まれた。この教科書の出版により、日本における中国語学習者によりよい学習環境を提供し、また中国の日本人中国語学習者にも学習ツールの選択肢の一つとして加えて頂けたらと願っている。この教科書シリーズの概要は以下のとおりである。

編集原則

一) 対象をはっきりさせた構成

学習者の母語の特性を考慮していること。欧米系学習者とは異なる学習法則の研究に基づき、日本人の中国語学習の特徴に即した教科書編集を行うことにより、日本語を母語とする学習者の学習効率を高めた。

二) 科学性

最新の国際的な教科書編集理論と中国語研究の成果に基づき、中国語素材の選択、導入、練習問題の設定などについて全面的に吟味し、専門的かつ科学的であるよう努めた。

三) 実索性

初級から上級まで、それぞれのレベルで異なる特徴を打ち出すと同時に、各レベルともに中国語によるコミュニケーション能

力の向上を目標とした。シーン別会話の設定や素材の選択は全て現実社会に即したものであり、これにより、実際に使うことに役立てる科書とした。

四) 系統性

国内外の第二言語教育基準、特にHSK基準を参考し、細かいレベル設定をする。本シリーズは初級、準中級、中級3段階で構成され、各級上・下冊、全6冊で構成した。

五) 文化的

本教科書は日中文化交流など文化的側面も取り入れることにより、語学学習の過程で文化についても知識を深めることができる。多元文化の背景のもと、新しい言語教育の姿を明らかにした。

目標構成

本教科書シリーズは3段階計6冊で構成される。各級の目標は以下のとおりである。

初 級：構造的を軸に編集し、機能的項目も考慮し、構造を理解し、機能も果たせるようにした。初級テキストは対象を明確にして編集したことが特長で、日本人学習者の弱点であるリスニングとスピーキングに重点をおき、同時に日中両言語における漢字のもつ橋渡し機能に着目し、初級段階から従来の欧米系学習者向け教材とは異なる新しいタイプの教科書とした。初級の語彙量は約800程度、学習終了後は初歩レベルの日常的コミュニケーションが可能である。

準中級：シーン別会話と機能性を軸に編集した。会話場面の現実性と実用性を高めるため、上冊では日本の状況、下冊では中国の状況に焦点を合わせた。会話場面はできるだけ機能的に、また初級で述べられなかった文法事項についても補足を行った。本文は会話に叙述文を加えた形式で、自然で、負担にならない、楽しい、学習者の興味をかきたてる内容とした。同時に、多方面からリスニングと会話能力を強化することにより、日本語を母語とする学習者に即した教材という特長を打ち出している。準中級学習終了後、語彙量は約1600、単独で中国で生活をすることができ、中国語

を用いて簡単なコミュニケーションを図ることができる。

中 級：機能性とトピックスを軸に編集を行い、同時に中級レベルの文法事項についてもふれた。初級、準中級での学習という基礎のもと、日中同形語の発音と意味に関する対照弁別能力を養う。本文は会話形式から文章形式に、内容は日常生活で使用するフレーズの学習から更に社会的、文化的要素をもつ文章の読解と運用となり、より深い、広い領域で中国語を用いた表現力、コミュニケーション力の向上を目指す。中級学習終了後は、語彙量約3200、比較的自由に中国語を用いて中国人とコミュニケーションし、交流することができる。

(中国では外国人に対する中国語を「初級」、「準中級」、「中級」、「高級」のように段階分けがおこわれるのが普通で、それぞれの段階で習得されるべき語彙数などが定められている。本シリーズにおいても「準中級」まではそれに準拠したが、「中級」は中国人の書いた原文を収録し解説を加える体裁にした。日本の慣例に従えば「中級」は「上級」の相当する。)

教科書の特長

対象国別教科書

言語教育学理論、特に第二言語学習理論の研究でもすでに明らかになっているが、母語の異なる学習者では、第二言語学习上の優位性と弱点も異なる。よって母語の異なる学習者のニーズに対して、第二言語学習教材の編集原則に基づき対象国別に教科書を策定することは科学的で効果的であり、この教科書シリーズの最大の特長のひとつでもある。

日中合作教科書

教科書のもう一つの特徴は、日中合作教科書であるということである。教科書の企画から編集大綱の策定、総顧問の招聘から総主編、総監修の協力により、各テキスト主編の決定から編者の構成および各課の執筆まで、すべてが日中双方の知恵と努力の結晶であり、お互いの良いところを取り入れた合作教科書である。

おもしろい教科書

教科書は学生の生活に密接した内容となっているだけではなく、日中両国の文化に焦点をおくと同時に世界に目を向け、人類共通の課題にも触れた豊富な内容となっている。また豊富で実用的、本文に即した様々な練習問題を用意しており、学習者により広く深く思考を促し、学習過程においてチャレンジ精神と楽しみをかきたてる内容となっている。

効果的な教科書

以上の特長より、この教科書は他の中国語教科書とは一線を画したもののとなっている。教科書は日本人学習者のニーズに即した、日中双方の中国語教師の知恵の結晶であり、科学的で面白い、実用性に富んだ効果的な教科書である。本シリーズが学習者に広く受け入れられると信じている。

本教科書シリーズは2008年の企画から2012年から出版まで、4年の時間を費やした。この間、立命館孔子学院は多大な労力を費やしてくださった。本教材の総主編として、立命館孔子学院に心より感謝申し上げます。貴学院の英知と果断により、この教科書は世に出ることができた。同時に、北京大学と立命館大学の学園執行部の方々にも感謝したい。二つの大学の執行部各位の意思決定と支持により、教科書編集を継続することができた。また、この教材の企画に対して助言くださったすべての日中両国の友人にお礼を申し上げたい。皆様方の参画と助言により、本教科書をより素晴らしいものにすることができた。最後に、本書の編集に尽力いただいた日中双方の教員に感謝の意を表する。北京大学出版社と中国語編集部の責任者と編集者にも感謝したい。この日中合作の結晶は北京大学出版社より出版される。

本教科書シリーズの不十分な点などについては、先生方、学習者の方々から忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いである。

李晓琪

2012年春北京大学にて

《中日桥汉语》准中级部分编写说明

由北京大学对外汉语教育学院和日本立命馆大学孔子学院共同编写的专门针对日本学习者的国别教材《中日桥汉语》全套共6册,这是其中的准中级部分,分为上下两册,每册12课,共24课,适合中等偏低水平(约相当于新HSK3级)的日本学习者使用。学习者学完准中级后,词汇量约可达到1600左右,可以用汉语进行简单的日常沟通,能独立在中国生活。

根据这一水平的学习者的特点,我们为这两本教材设定的编写原则和目标是:

1. 以情景和功能为纲设置内容。考虑到学习者的具体情况和水平,兼顾在母语环境下和在目的语环境下学习不同学习者,也为了体现情景的真实性和实用性,准中级上下两册均侧重于把情景设定在中国,并尽可能做到寓功能于情景之中,同时注意补充初级阶段未曾学习的语法项目。

2. 课文全部是对话加叙述的形式,力求自然、轻松、有趣,以引发学习者的兴趣。

3. 在练习中注意以多种形式强化听和说的训练,进一步体现本教材针对母语为日语的学习者的特点。

本教材的主要特点体现在每课的结构安排、内容设计和“文化掠影”这三个方面。

1. 结构安排

在编写教材时,我们在每一课的结构安排上做了精心设计,在每一课中安排了三个小循环:第一个循环是“生词和短语+课文一(对话体,包括汉字及拼音两种形式)+课文一听说练习+语言点及练习”;第二个循环是“课文二(叙述体,包括汉字及拼音两种形式)+课文二练习”;第三个循环是“综合练习”。三个循环结束后,是作为补充阅读材料的“文化掠影”。

这三个循环不是简单的重复,而是各有侧重和目的:

- (1) 第一个循环中的重点在学习词语和对话体课文,内容设计思路为:在完成内容输入后,针对日本学习者的特征,重点对学生进行听说训练,然后再通过对语言点的讲解和练习帮助学生掌握基本的语法知识。

(2) 在第二个循环中,我们把课文一中的对话体课文改写成叙述体,复现第一部分的词语和一些语法点,起到帮助学生复习、加强记忆的作用。同时,这也是为了进一步训练学生的成段表述能力,更好地与中级阶段的成段表述衔接。第二个循环的练习部分继续以训练听说能力为主要目标,同时试图通过连词成句的形式来培养学生的语感。

(3) 第三个循环是“综合练习”,这部分可帮助学生全面复习本课新词语,并通过“课堂活动”再一次把听说能力的训练放置到实际的交际过程中,同时起到活跃课堂的作用。这三个循环基本上按照实际教学过程安排,教师可以直接按照教材步骤进行课堂操作。

2. 内容设计

(1) 课文设计

我们遵循功能与情景紧密结合的原则构思了上下两册的话题,尽量使这24课包含的情景和功能更具实用性。在编写课文内容时,我们既坚持了实用性的原则,同时也把趣味性看作不可或缺的重要因素,力图让学生不仅“要读”而且“爱读”。为了方便学生学习,我们给课文配置了拼音。之所以没有把拼音与文字排在一起,是为了让学生不要过分依赖拼音,渐渐适应在没有拼音的情况下阅读汉字,为学习中级部分做好充分的准备。在第二个循环中,我们把对话体课文改写为叙述体,并且设计了要求学生反复聆听录音、复述短文内容的练习形式,继续针对日本学生的特点加强听说能力的训练,有效提高学生开口率,进一步培养学生的语感。

(2) 语言点讲解设计

准确的理解是学习语法的基础。在讲解语言点时,我们采用了汉语、日语两种讲解语言,加深学生对内容的理解。此外,每一个语言点下都设置了形式不同的练习,让学生即学即练,而且每次都有新鲜感,在学习中产生足够的成就感,增加学习的兴趣和动力。

(3) 词语练习设计

关于词语的练习在前面的两个循环中似乎被“忽视”了。因此在第三个循环中,我们设计了“词汇练习”和“课堂活动”两个环节。“词汇练习”通过组词、搭配、填空、问答等多种形式,补充了在前面两个循环中重听说练习、轻词语练习的不足。

(4) 课堂活动设计

“课堂活动”这个环节是全课词语、语言点在虚拟情景中的大操练,这个环节的设计再次回到情景与功能结合的原则上来。我们为每一课的课

堂活动都设计了具体、真实的情景,并在功能上提出明确的要求,让学生在真实情景中复习、运用本课所学的重点词汇和句式。

3. “文化掠影”

语言与文化从来都是密不可分的。为此,我们在每一课的最后设置了“文化掠影”这个板块,内容的选择既紧密结合课文所学,又在此基础上有所扩展和延伸,能够丰富、开阔学生知识面,增加其对中国了解。随文附上“关键词语提示”,可以扩大学生词汇量;文后的“想一想,聊一聊”环节使教师和学生读完这部分内容后“有事可做”。

鉴于准中级教材上述设计思路和特点,我们对教学提出如下建议:

1. 课时安排

本教材在日本环境下和在中国环境下都可以使用。在日本,一节课时长为90分钟,学完一课约需要3次课。如果每周1节课,学完一册约需36节课,大概一学年,两册全部学完大约需用4个学期,两学年。如果一周安排2—3节课,则一年可以学完两册。

在中国,一节课时长为50分钟,一般两节课连排。学完一课大约需用6节课(3次)。如果一周安排6节课,一学期可以学完一册,一学年可以学完两册。如果在以日本学生为主的短期班、培训班使用,以每周安排10节课(5次)计,一个半月左右可以学完10课,两个月可以学完一册。

当然,以上只是大概的估算。课程的进度与学生的数量和水平等因素也有着直接的关系,教师在教学中可以视情况具体安排。

2. 课堂操作

对于第一个循环中的词汇、对话体课文和语言点,建议分段穿插进行,即教一部分词语,接着教相应的课文,并把相关的语言点穿插在其中。这样可以使课堂教学保持一个良好的节奏,不会让学生产生枯燥冗长、缺乏变化的感觉。

在其他部分内容的课堂操作程序上,既可以按照教材安排的顺序进行,也可以根据学生情况有选择地加以变化或删减。比如,可以在学完词汇后先做“综合练习”中的“词语练习”,也可以删减某个练习或“文化掠影”等内容。

以上建议仅供使用者参考。根据学生的需求和特点来灵活地安排教学,这是任何课堂教学都应该遵循的主要原则。

最后,我们要借此机会衷心感谢日本立命馆大学孔子学院对本教材的编写出版所给予的大力支持和帮助,也要衷心感谢北京大学出版社汉语编

辑室的编辑对本教材的精心审阅和有效推进。希望这部凝聚着中日两国汉语教师心血的教材能够受到使用者的欢迎,在对日汉语教学中起到应有的作用。也衷心欢迎使用者给我们的教材提出宝贵的意见和建议。

《中日桥汉语·准中级》主编 金舒年 绢川浩敏 池田巧
于2014年仲春时节

『中國語——日中のかけ橋 準中級』編 編集について

この本は、北京大学對外漢語教育学院と立命館大学孔子学院が共同して編集した日本人学習者向けの国別教材『中國語——日中のかけ橋』シリーズ6冊の、準中級部分であり、上・下冊、各冊12課、あわせて24課あります。中級のやや低い部分(新HSKのレベルではほぼ3級に相当)の日本人学習者に使用してもらうことを想定しています。

このレベルの学習者の特徴を考え、私たちはこの2冊の教材の編集方針と目的を以下のように設定しました。シーン別会話とコミュニケーション機能を軸に編集し、学習者の具体的状況とレベルに配慮しました。また、母語環境下にあるものと目標言語環境下にあるものという異なった環境にある学習者の双方を想定し、シーンのリアリティと実用性を重視するために、準中級は、上・下冊とも中国を設定シーンとして多く取り入れました。あわせて、できるだけコミュニケーション機能をシーンの中に表現するように努力し、初級段階で学習していない文法項目を補うことに努めました。本文はすべて対話体に記述体を加えた形式とし、自然で、負担にならない、楽しい、学習者の興味をかきたてる内容となるようにしました。練習の編集においては、さまざまな形式でリスニングとスピーキングを強化することに意を注ぎ、日本語を母語とする学習者向けの教材としての特長が実現するように努めました。学習者が準中級を学び終われば、語彙量は1600前後、単独で中国で生活することができ、中国語で簡単な日常的コミュニケーションができるようになります。

本教材の特長は、課毎の構造的配置、各部分の内容構成に意を用いたこと、「文化点描」の3つの面に表れています。

まず、構造的配置について。この2冊の教材を編集するに当たって、私たち編者は、1課ごとの構造的配置に細心の注意を払いました。各課ごとに3つの小サイクルを配置し、第一のサイクルは、「その課の語彙」+「本文Ⅰ(対話体)」+「本文ピンイン」+「本文リスニングと会話練習」+

「文法のポイントおよび練習」、第2のサイクルは「本文Ⅱ（記述体本文）」+「本文Ⅱピンイン」+「本文Ⅱ練習」、第3のサイクルが、総合練習であり、補充読解文としての「文化点描」です。この3つのサイクルは、単純な反復ではなくそれぞれ重点と目的があります。第一のサイクルでは単語と対話体の本文を学び、インプットした後で、日本人学習者の弱点を補うために、重点的にヒアリングとスピーキングの訓練を行ない、さらに文法ポイントの説明や練習を通して、学生が基本的な文法知識をマスターすることをサポートします。第二のサイクルでは、「本文Ⅰ」の対話体を記述体書き換え、第一の部分の単語や文法のポイントをもう一度提示しました。これは、学生が復習し、記憶を確かなものにするのをサポートするためです。同時に、初級で学習した基礎の上に、一定の長さの文章で表現する能力を訓練するためであり、中級段階のパラグラフ表現とスムーズに連結させるためでもあります。第二のサイクルの練習部分では、継続して、リスニングと会話能力の訓練を主としましたが、同時に「成語を並び替えて文を作る」ことで学生の語感を検証・養成することを企図しています。第三のサイクルは「総合練習」です。この部分をデザインした主な目的はその課の新出単語を総復習することであり、あわせて、「クラス活動」でもう一度リスニングと会話能力の訓練を実際のコミュニケーションプロセスの中に位置づけ、同時にクラスを生き生きとする役割を果たすことを期待しています。この三つのサイクルは、基本的に実際の授業の進行に応じて配置していますが、教員が教材の進度に応じて、直接コントロールしてもかまいません。

この教材の第二の特長は課毎の各部分の内容構成に意を用いて配置したことに具体的に表しています。

第一のサイクルでは、私たちはコミュニケーション機能とシーンをしっかりと結びつけ、この基準から、上・下二冊の話題を構想し、できうるかぎりこの24課に含まれるシーンとコミュニケーション機能に実用性が備わるように工夫しました。テキストの本文内容を編集し書く上で、私たちは実際に役に立つという原則を堅持し、同時に楽しさを欠くべからざる重要な要素と考え、学生に「読ませる」だけでなく「読みたい」ものとなるよう努めました。学生が学習する便宜のため、本文にはピンインを配置しましたが、ピンインと文字とを同一ページには組まなかったのは、学生がピンインに過剰に依存しないようにするためであり、徐々に